



大川扇状地のさえんばたけ（さといも畑）  
（41.10.16写す）



大川扇状地のさえんばたけ（こぼうばたけ）  
（41.10.16写す）



冬のねぎ掘り（西麻生で）（昭和42.1.6）

1、さえんばの有利性 寛文五年の書上げなどをみても、既に城下町が発達して、旧中荒井組・橋爪組、即ち現在の北会津村の地域が、その野菜補給地であるがように、蔬菜類の産が目立つように記載してある。これは、旧鶴沼川の扇状地で、下部に厚い礫層の横たわる地域が多く、水田はざる田、即ち田の水が滲透してしまいか、中州は既に湿地に対して、やや高味で、灌漑する用水を得難く、むしろ蔬菜や、果樹類栽培に適するという好条件もあつたようである。

屋敷の中の蔬菜園をさえんばたけなどいつているが、会津の城下町にとって北会津村はさえんばの役目を果し